

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600048		
法人名	社会福祉法人 八甲田会		
事業所名	グループホーム東一番町八甲荘		
所在地	〒034-0012 青森県十和田市東一番町11-24		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成29年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の希望や体調・行動に合わせて、ゆっくりと過ごせるようにその日の予定を決め、希望の方には塗り絵やパズルに取り組んで頂いたり、日常生活において意欲が低下しないように心がけている。季節に沿った外出行事を行うことで、季節の変わり目を意識し、認知症状の進行が軽減できるよう支援している。事業所内の駐車場を町内会の夏祭りや地域交流会の会場として貸し出し、入居者が地域とのつながりを持ち続けられるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣に商業施設が多くあり、利便性の良い場所に立地している。国道からは適度に離れた住宅地があり、落ち着いて生活できる環境にある。事業所は、敷地を町内会の行事に提供したり、職員が行事を手伝ったり、家族に案内を出すなど、地域との協力関係を築き、入居者が地域とつながりながら暮らせるように努力されている。理念に沿って、行動指針となる「7カ条」を掲げ、職員間で共有して日々の実践に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の掲示板・ホール・事務室・更衣室に掲示しており、いつでも目が届くようにしている。また月1回、同法人の職員全体会議が開催されており、その時に唱和している。	法人と同様の理念および行動指針となる7カ条を掲げ、職員や来訪者が見やすい場所に掲示している。職員は、会議や日々の業務の中で振り返りながら入居者の支援に取り組んでいる。	重要事項説明書のグループホームの目的に「地域住民との交流」を謳い、日々実践している様子が伺えるので、このことを独自の理念等に示されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の駐車場を町内会の夏祭り会場や地域交流会の会場として利用し、利用者も参加し交流を深めている。	町内会に加入し、夏祭りなどの町内会行事の際には、職員が手伝ったり、敷地を開放するなどして交流を深めている。また、保育園児や音楽サークルが来訪するなど、積極的な交流がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区で行われている認知症徘徊高齢者模擬訓練等に参加したり、運営推進会議において、町内会長、民生委員、ご近所の方へ認知症の方を理解して頂けるよう勉強会や説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、入居者の生活状況(行事・外出・体調等)を報告している。介護保険等の情報を提供したり、地域交流を継続していくための情報交換を行っている。	会議では、入居者の近況や事業所の取り組みを報告し、情報交換の中で幅広く意見を取り入れ、出された意見は職員会議などで共有して、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告メールでのやり取りで情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催の研修会等に参加し協力関係を築いている。	法の改正時の疑問点や運営上の課題などを相談し、課題解決を図っている。また、地域包括支援センターの仕組みについて運営推進会議で説明していただくなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員同士で話し合い共通の認識を持ち、身体拘束を行わないケアを実践している。行動障害のある方への対応は、寄り添い思いを共感できるようなケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、外部研修への参加や勉強会を通じて、身体拘束について職員間で共通の認識を持ち、適切な支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会において、虐待の実態事例等を確認し、日頃と態度・身体状況が違う入居者がいないか注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行い、わからないことを確認し理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に重要事項説明書や契約書について十分に説明し、ご家族・ご本人に納得して頂いたうえで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族等からの意見があった場合は、その都度速やかに対応している。特に、通院時の要望や意見等、ご家族又は医師より情報を聞き取り記録しその情報を家族・医師へ伝えている。	契約時、意見等を言える外部機関について説明を行っている。また、入居者の要望は聞き取りや日々の支援の中でくみ取っている。家族には面会や通院時に意向確認を行い、意見や要望の把握に努めている。意見や要望は、職員間で話し合いを行うとともに、必要に応じて法人に報告し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・特別養護老人ホーム施設長・総務部長が頻繁に来荘し、職員へ声掛けし意見を聴いている。管理者は必要に応じて意見や提案を聴き、業務へ反映させている。	職員への声掛けや職員会議の中で意見を聞く機会を多く持ち、サービスの向上や職員の労働環境の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定の見直しを行っている。各自が意欲を持って働けるよう勤務交換や有給取得など柔軟に対応し環境整備に努めている。毎月、休み希望をとり、勤務体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の資料をまとめ、希望にて研修に参加している。また、毎月の職員会議内で勉強会を開催したり、研修に参加した職員が講師となり、全職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の勉強会や同業者の交流会へ参加しネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、希望や困っていること、不安などを確認し、職員間で検討会議を行い、統一ケアを行うことで、安心して日常生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時に、家族が話しやすい雰囲気を作り、傾聴・共感し話を進めていくよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向や状況を確認し、担当ケアマネとも連携を図り、一番必要と思われるサービスを助言・紹介できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ひとり一人の力量に合わせて役割を持って頂き、職員と一緒に行動することで、共に生活しているという関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話にて近況を報告したり、毎月のお便りを送付している。お便りには、写真や行事等の内容を記載し、ご家族に対して状態を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の美容院への外出支援や知り合いの面会もあり、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。また、施設での行事に参加して頂けるよう予定を伝えている。	馴染みの美容院へ出掛けたり、町内会の行事の時には家族にも案内を出している。また、家族の協力を得て外泊するなど、できる限り個々のつながりが継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の穏やかな関係が保てるよう、日頃の出来事を職員間で共有し、職員が間に入ったりしながら、利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族から連絡があれば近況を伺ったり、必要に応じて相談に応じたり支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報やご本人の意向、希望を聞き取ったり、上手に伝えられない入居者に対しては、表情やしぐさから思いをくみ取り、ご本人の思いを尊重できるよう職員間で検討しながら対応している。	これまでの暮らしや受けてきたサービスを把握し、家族から意見を聞いたり、本人の意向をくみ取りながら、職員間で情報共有し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネからの情報やご家族・ご本人からの聞き取り、馴染みの品物等があれば持参して下さるようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報、ご本人、ご家族からの聞き取りと、検討会議等において記録、情報を確認し共有することでこれまでの暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し介護計画を作成している。また、カンファレンスで課題等について話し合いを行っている。	本人や家族の意向や担当職員の評価などを確認し、モニタリングを踏まえケア会議で意見集約し、個々の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスにて入居者の状態や現在の課題、ケアの対応などを話し合っ検討を行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況を把握しながら、外出したい場所、食べたい物などのニーズを伺い、意向に沿えるよう検討し柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアの方に来て頂いたり、近くの保育園児のお散歩の途中に寄って頂いたり、地域交流の際にご近所の方にボランティアに来て頂き、入居者との交流の場を持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、通院等の支援を行っている。通院後は、家族へ通院結果を連絡し、必要に応じて同行をお願いしている。ご家族と医療機関との連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。医療機関への連絡や通院の仕方、受診結果の報告など関係者間で情報共有しながら受診支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師が週1回来荘し、かかりつけ医の看護師やご家族へ状況を説明し、連携を取りながら入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院先へ医療連携シート等提供したり、入院先の相談員・ご家族と連絡を取りながら、関係作りを行っている。また、ご本人へ面会に行き、安心して入院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、ターミナルケアを行っていない。入所時に説明し、経過をみながら事業所としてできることや他サービスの情報を提供しながら、十分に説明しながら方針を共有し支援している。	入居契約の段階で、事業所の方針や対応できる設備面について説明している。また、状況に応じて医療機関や他事業所や、他サービスの活用等の連携について話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや無断離荘時のマニュアルを作成し、緊急時に備えている。また、職員会議において確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署員立ち合いの下で行っている。毎月、日中・夜間想定火災・地震を想定した訓練を行っている。訓練には、民生委員・町内会の方・ご家族へ協力をお願いし参加して頂いている。	年1回は運営推進会議の開催日に消防署員立ち合いの下で行っている。また、町内会の方や民生委員には自動通報される体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の情報を共有し、尊厳やプライバシーを損なわないよう対応している。職員間の情報交換は事務所内などで行い、入居者の前では行わないようにしている。	言葉がけの際や職員間の伝達、記録等の取り扱いでは、個々の尊厳やプライバシーが損なわれないよう配慮している。また、外部研修などで職員が振り返ることができる機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服の選択や、定期的に変化食などを設け、希望の確認をしている。意思決定困難な方は、表情やしぐさから思いをくみ取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、強制せず一人ひとりのペースに合わせて声掛けし、入居者に合わせた生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選択したり、毎日同じ服にならないように、準備や声掛け等を行いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に季節を感じられるような食材を取り入れたり、手作りおやつ会を行う等食事を楽しめるよう支援している。おしぼりたたみや食器拭き等もお手伝いして頂いている。	入居者に出来ることは、手伝っていただいている。季節の食材を取り入れたり、月に2回手作りのおやつを楽しんだり、定期的に外食に出かけるなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の量を観察し記録を取っている。少ない方にはこまめに摂って頂いたり、好みのものを提供する等支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶での口腔ケアを実施している。一人でできない方は、できることは自分で行ってもらえない部分へは支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声掛けや誘導を行っている。また、夜間はポータブルトイレを利用することにより、排泄の自立を継続できるよう支援している。	一人ひとりのサインや排泄パターンを把握し、さりげない支援を行っている。失敗した場合は極力本人が傷つかないように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、乳製品や果物等を提供している。また、軽体操等にも取り組み予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にご本人に同意を得てから入浴を行っている。週2回入浴できるよう、入浴日を決め拒否がみられる時は声掛けを工夫したり、時間を置いて入浴する等対応している。	入浴は月火木金、足浴が土日と曜日は決まっているが、一人ひとりの体調や気分、希望に合わせて週2回入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動して頂くように、軽体操・軽作業を行い、活動的に過ごして頂くようにしている。希望の方には昼寝もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに閉じ、情報を共有している。薬の変更時には、効果や副作用等の申し送りを行い、職員全員が把握できるように配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりたたみや食器拭き等、個々に合わせて役割をもって頂いている。手作りおやつ会や外出ドライブを企画し気分転換や楽しみをもって頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ドライブや同法人の他事業所で行われている行事へ参加したり、一人ひとりに外出希望を伺い外出支援をしている。同法人で行われている納涼祭や地域交流会等には、地域の方やご家族の方に案内状を送付し協力して頂けるよう努めている。	一人ひとりの希望や心身の状況に合わせた外出支援を行っている。過ごしやすい時期は、散歩を楽しんでいるほか、地域との交流や外食を楽しんだり、受診の際には希望に応じて買い物に立ち寄っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務室内で預かり、外出時に一人ひとりの希望に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話して欲しいと依頼があった場合は、電話の支援を行い、ご家族等へ連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により、綺麗な空間作りを実践している。観葉植物やアロマディフューザーを取り入れたり、室内温度をこまめに調節する等、居心地よく穏やかに過ごせるように工夫している。	共用空間は適度に明るく開放感があり、過ごしやすいようにソファなどの家具や緑が配置されている。冷暖房や空気清浄機により季節を問わず快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、入居者がそれぞれ好きな場所でくつろぐことができるように、1人用、2人用、3人用ソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具や寝具等を持参して頂いたり、家族写真を飾ることで居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居前に使っていた布団を持参して頂いたり、本人や家族の希望によりベッドの配置や飾りつけをしている。また、適切な換気や空調により心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで、段差がなく、広い空間になっており、歩行器や車椅子を利用しても安心して移動することができる。また、各所に手すりを設置しており、安心して歩行できるようにしている。		